

【よくある質問(FAQ)】2024年度学生海外チャレンジ応援事業

2024. 4. 26

No.	質問	回答
1	大学院生も申請できるか？	この事業は学部生のみを対象にしているため、申請できません。
2	奨学金はいつ支給されるか？	前期に渡航する人には7月末、後期に渡航する人には12月末に支給する予定です。
3	ボランティアやインターンシップの参加費を5月中に支払わないといけないのもっと早く結果を教えてもらえないか？	審査にはある程度時間がかかり、急いでも6月末の公表となってしまいます。また、公平な審査の観点からも個別に審査の状況や結果を伝えることはできないので、ご理解ください。
4	今回申し込んで採用された場合、次年度の申込は通りにくくなるか？	一概には言えませんが、採用に当たっては海外渡航の経験が少ない方を優先します。
5	語学留学がしたいが学生海外チャレンジに申請できるか？	語学学校を組み込んだ計画でも応募できるが、語学学校に通うだけのプランはNG。留学先において実社会との接点を持つ実践活動の企画を含めてください。
6	グループで申請できるか？	申請は個人でしかできませんが、複数人で渡航する計画で各人が申請することはできます。
7	実社会との接点を持つ実践活動とはどんなものか？	現地での研究活動（試料収集などのフィールドワーク等）、ボランティア活動、インターンシップ等がその例です。
8	Form3の【実施スケジュール】の書き方が分からない。	Form1に記載した概要や実践活動の内容と合致するよう、現地到着から滞在最終日までの滞在中の活動のスケジュール（予定）を書いてください。現地の滞在日数が10日～2週間程度であれば1日単位、一月以上であれば、数日～1週間単位程度で記載すると良いでしょう。表や図を貼っても構いません。
9	複数の場所に滞在する計画でも申請できるか？	申請できます。ただし、申請書類Form3を作成する際に注意が必要です。「渡航及び準備支援」と「生活支援」は渡航先地域の区分により異なります。滞在する場所が同じ区分である場合は問題ありませんが、アジアとヨーロッパに滞在する等区分が異なる場合は滞在日数が多い方を選択し、宿泊日数は計画全体を通しての宿泊日数を記入してください。そして【実施スケジュール】の欄で滞在日数の内訳を明確に示してください。
10	学生海外チャレンジ応援事業での計画が終了後、渡航先で観光をしても良いか？	チャレンジでの計画とプライベート滞在を組み合わせることは認められません。
11	他の奨学金に申し込んでいるが同じ計画でチャレンジ応援事業にも申請して良いか？	別の制度に申請した同じ内容で学生海外チャレンジ応援事業に申請することはできません。何にも申請していない、オリジナルな計画で申請してください。